【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和４年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	玄海みらい学園

1　前年度 評価結果の概要	・学校教育目標「みらい へステップ～3つの笑顔で～」については児童生徒はもとより地域にも浸透し、学校目標の共有が図られた。 ・昨年度は県指定の小中連携による学力向上推進地域指定事業に継続して取り組み、全職員で学習スタイルを定着させ、学力向上の成果も多くの学年で見ることができた。 ・心の教育として義務教育学校の特色を出し、9か年の発達段階に応じて系統的に児童生徒の育成をするために、小中連携部会を中心に、情報共有を基に、役割を明確化して早期発見・早期対応できる体制作りを整備してきたことが、現在の学園の落ち着いた様子へとつながっている。児童生徒会の取り組みについては、コロナ禍の状況でできる活動が限られていたが、その中でアイデアを出しながら主体的な活動を行うことができた。自他を大切にする心の教育については、今後も継続して取り組んでいく必要がある。 ・課題としては、生活習慣の安定化や家庭学習の充実のために家庭との連携をより一層深めることや、児童生徒が主体的に考え、行動できるように学園全体で学びを仕組むことが挙げられる。また、教職員の時間外勤務時間のさらなる縮減にも取り組む必要がある。
2　学校教育目標	「自ら気づき考え動き、よりよい未来を拓く児童生徒の育成」 みらいにつなぐ　　～わたしらしさ　あなたらしさ～
3　本年度の重点目標	①　主体性の深化と発展を目指したカリキュラム・マネジメント ②　義務教育9年間の学びと育ちを意識した学校づくりの推進 ③　組織力を生かした業務の改善と時間外勤務時間の縮減

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえたアウトプット活動の充実	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合が、85%以上。	・「めあて」「まとめ」「振り返り」を意識した授業に全職員が取り組む。 ・学校教育の様々な場面で「書く」「話し合う」などのアウトプット活動を行う。	B	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成しつつある、どちらかと言えばしつつあると肯定的に回答した教師の割合は、91%であった。 ・授業中にめあてに向かって考えを書いたり、まとめや振り返りを書いたりすることができていますと肯定的に回答した児童生徒の割合は91%であり、授業でのめあてやまとめが定着しつつある。 ・しかし、佐賀県小・中学校学習状況調査（12月調査）の結果から、思考力・判断力・表現力や記述力に課題が見られる。	B	・学園全体で取り組まれて児童生徒の学力が数年前から徐々に向上していることは評価できるが、成果指標に対して達成しつつあると回答した教師の割合が23%であり、どちらかと言えばしつつあると回答した教師の割合は72%であるため、十分達成とはいえないのではないか。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○基礎学力の定着と家庭学習の充実	○家庭学習の目安（1・2年30分以上、3年40分以上、4年50分以上、5年60分以上、6年70分以上、中1・中2 90分以上、中3 120分以上）を達成していると答えた児童生徒が70%以上。	・「学習の手引き」を配布し、学習に対する保護者の意識を高める。昨年度に引き続き「家庭学習チェック表」を活用し、面談の折に保護者に開示し、家庭学習に対してさらに関心をもってもらう。（全学年） ・各教科の特性に合わせて、小テストや単元テストに取り組み、基礎的内容や用語の定着を図る。	A	・家庭学習の目安の時間を達成していると肯定的に回答した児童生徒の割合は71%である。 ・家庭学習チェック表の活用や自学ノート展などの取組を行ってきたが、今後も家庭学習指導・啓発の工夫を行い、保護者への協力もお願いしていきたい。	B	・基礎学力の定着や学力向上のためには、家庭学習の充実が大切であると考える。先生方の取組に感謝しつつ、今後も児童生徒への指導と家庭への啓発が必要であると考える。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任 ・学習部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○前期課程の縦割り遊びを年７回以上行い、異学年との交流を図る。 ○縦割り班での奉仕作業や集会を行う。	・前期課程児童による縦割り遊びを行う。 ・縦割り班で1年生を迎える会、仲良くなろう集会、校内奉仕作業を行う。	A	・前期課程の縦割り遊びはコロナ禍ではあったが、1年生を迎える会や折り鶴づくり、11月の仲良くなろう集会も含めて7回実施できた。 ・後期課程も生徒会を中心に奉仕活動（掃除等）を積極的に行った。	B	・新型コロナウイルス感染症対策のため、制限された部分もあったかと思うが、今後も他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感など豊かな心の育成に取り組んでいただきたい。	・特別活動主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめに気付き、注意したり、先生に知らせたりできる」という児童生徒80%以上。 ○いじめの発生時に組織的な対応ができていると答える職員90%以上。	・毎月末の生活アンケートを活用する。 ・全てのクラスで道徳の授業や人権教室等でいじめについて取り扱い、いじめを他人事ではなく自分のこととして考える態度を育て、全校児童生徒の人権意識を高める。 ・発生したいじめ事案をその日のうちに共有できるように、生徒指導部が中心となり、管理職の指示のもと全職員と連携を図る。	A	・「いじめに気付き、注意したり、先生に知らせたりできる」と肯定的に回答した児童生徒は87%であり、昨年度より7%増加した。 ・いじめの未然防止、早期発見に努め、発生時に組織的な対応ができていると肯定的に答える職員は100%であり、職員の意識は高く、迅速に情報共有を行い、組織として対応できた。	B	・以前、先生に相談してよい方向に向かった事例があった。先生方の尽力に感謝したい。しかし、保護者のアンケート結果では「そう思う」と回答した割合があまり高くないため、保護者から学園に伝わっていないこともあるのではないか。	・生徒指導主事 ・生活指導主任
	○児童生徒一人ひとりを大切にし、受容と共感的理解に基づいた生徒指導の育成	○「自分で善悪の判断をしながら物事を考えて行動します」のアンケートで達成割合90%以上。 ◎「自分と友達との違いを受け入れながら、誰とでも公平に接している」のアンケートで達成割合90%以上。	・月1回の人権集会の実施や授業を通して人権・同和教育を行い、学校全体で指導にあたる。 ・道徳教育や学校行事を通して、よりよい人間関係づくりを構築する。 ・気になる児童や生徒に関する情報共有の場（連絡協議会や教育相談等）を設けながら指導にあたる。	B	・「自分で善悪の判断をして行動したり、誰にでも公平に接したりできている」と肯定的に回答した児童生徒は89%である。今後、教職員の意識も高めて指導したい。 ・「自分と友達との違いを受け入れながら、誰とでも公平に接している」と肯定的に回答した児童生徒は94%である。	B	・支援を必要とする児童生徒が増えていると聞き、先生方もたいへんだと思うが、今後も一人一人のよさや可能性を伸ばす生徒指導の充実を期待します。	・人権・同和教育担当 ・道徳主任
●健康・体つくり	❶運動習慣の改善や定着化	❶授業以外で運動やスポーツを行う時間が１週間で210分以上の児童、420分以上の生徒が80%以上。 ○体育の授業を主体的に行っている生徒が80%以上。	・昼休みには体育館や運動場の使用割り当てを決め開放する。 ・校内持久走大会を計画・実施し、体育の時間や休み時間に運動場を走ることを呼びかける。（前期） ・体育の授業で、自分たちで考えて活動できるような場を設定する。（後期） ・部活動への積極的な入部・参加を勧める。（後期）	B	・❶について肯定的に回答した児童生徒の割合は79%であり、2極化傾向が見られ、課題である。 ・○の生徒の割合は86%であった。授業中にグループで練習内容を考えさせる活動に取り組んだ成果が見られた。 ・年間を通して昼休みの計画的な体育館・運動場の使用を行い、前期課程では持久走の取組やスポーツチャレンジの推奨、3年生で体操教室、4年生でタグラグビー教室を実施した。	B	・体を動かすことは大切である。地域でも運動することを推奨していかないといけない。 ・後期課程の部活動での活躍も期待したい。	・体育主任
	❸望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	❸「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上。	・朝食摂取、残菜0を呼びかける。 ・給食時間や授業の中で、食に関する指導を実施する。	A	・授業や給食時間の放送、給食だよりや保健だより等で啓発を行うことができた。 ・「健康に食事は大切である」と肯定的に回答した児童生徒は94%である。昨年度より大幅に向上しているが、要因としてはアンケートの質問文を単純にしたことが考えられる。	B	・肯定的に回答した児童生徒の割合は高いが、教職員へのアンケート結果で「そう思う」と回答した割合が低いように思えました。	・食育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校等時間の上限45時間以内の職員80%以上。 ○小中部会等を有効活用し、校務分掌や学年間の共通理解・共通実践を通した協働体制の構築。 「私は組織に貢献できている」と答える職員80%以上。	・管理職が時間外勤務の状況を把握し、全体または個別に適宜声をかけてタイムマネジメントを指導する。 ・定時退勤日の推進や月別練習計画に沿った部活動指導や休養日の設定による負担軽減。 ・目標や役割を明確化し、成果と課題を基に、PDCAサイクルを機能させ、効率化を図る。 ・校内LANで校務データを共有し、誰もが利用できる環境にすることで効率化を図る。	A	・時間外在校等時間の上限月45時間以内を意識して業務改善に努めていると肯定的に回答した職員の割合は91%である。 ・時間外在校等時間の上限月45時間以内の職員は徐々に増えてきている。 ・「私は組織に貢献できている」と肯定的に回答した職員は98%であり、校務分掌や学年間の共通理解・共通実践を通した協働体制が構築されつつある。	B	・先生方が健康で児童生徒の指導にあたることは大切である。これまでは新型コロナウイルス感染症対応で制限もあったが、登下校や通学バスの見守り等地域として協力できることは協力していきたい。	・管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○児童生徒会活動の充実	◎児童生徒会活動において「出番・役割・承認」による主体的な活動を仕組み、活動の質や自己有用感の向上とリーダー性の高揚	○年4回以上代表委員会を開催する。 ○年10回以上生徒集会を行う。 ○ボランティア活動を学期に1回以上、年4回以上行う。	・代表委員会を開催し、児童生徒の意見を取り入れた活動を行う。 ・月1回の生徒集会、1学期に生徒総会をおこなう。 ・校舎周りのごみ拾い、暑中見舞いや年賀はがきの作成、募金活動を行う。	A	・児童生徒の自主的な活動となるよう、代表委員会や生徒集会を定期的に開催することができた。 ・独居老人への暑中見舞いはがきや年賀状作成、花植え、生徒会での募金活動やボランティア清掃を行った。 ・児童生徒の84%が下級生の見本となるよう活動していると回答した。	B	・児童生徒が自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、将来、価値観や考え方が異なる多様な他者を受け入れ、協働できる資質・能力を育成してほしい。	・特活部 ・児童・生徒会担当

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・県指定の小中連携による学力向上推進地域指定事業に継続して取り組み、全職員で学習スタイルを定着させ、学校訪問や公開授業で授業改善の成果を見ることができた。しかし、佐賀県学習状況調査の結果等から、今後もさらに授業改善と学力向上に取り組む必要がある。 ・児童生徒は、学校教育目標の周知等により、自分や友達のよさに目を向けることができている。職員は、いじめや問題行動に対して早期発見・早期対応に努め、組織的に対応することができた。全体や前期・後期課程、各部会や各学年等の校務分掌で義務教育学校としての協働体制が構築されつつある。また、職員に時間を意識した働き方の雰囲気が、少しずつ醸成されつつある。 ・児童生徒の運動習慣には個人差があり、様々な取組を行ったが、今後も体育科授業等で運動意欲を高める工夫が必要である。 ・今年度学校評価の取組を重点化・焦点化し、アンケートをオンラインで行ったことは業務効率化につながったが、特別支援教育に課題が見られたため、来年度の重点取組としたい。